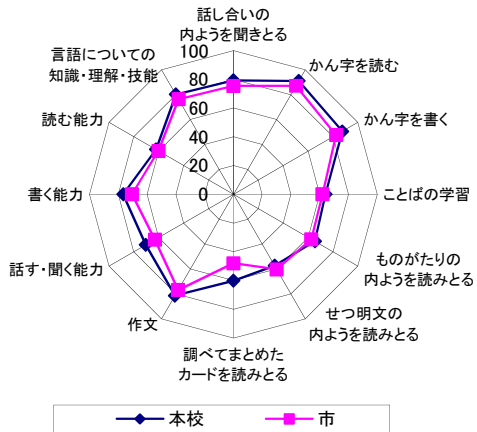


宇都宮市立宝木小学校 第3学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞きとる	79.2	75.4
	かん字を読む	91.0	87.2
	かん字を書く	87.5	82.5
	ことばの学習	64.0	62.0
	ものがたりの内ようを読みとる	65.5	62.5
	せつ明文の内ようを読みとる	57.3	60.3
	調べてまとめたカードを読みとる	60.1	48.0
	作文	81.4	76.8
観点別	話す・聞く能力	70.4	63.0
	書く能力	76.7	70.6
	読む能力	62.2	60.2
	言語についての知識・理解・技能	80.1	76.3



★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞きとる	・平均正答率は、市の平均を上回った。 ・話の中心や、話し手の工夫に気を付けて聞くことについては、いずれも市の平均正答率を上回った。 ・話し手の考えの共通点を聞き取り、問題文に入る言葉を書く問題では、市の平均正答率を7ポイント上回った。	・話の中心や話し手の工夫に気を付けながら聞くことについては、国語の授業において繰り返し行って習熟を図る。 ・国語や社会、総合的な学習の授業において様々な人の話を聞く機会を設け、話を聞きながら要点を押さえてメモをとることに慣れさせる。
かん字	・漢字についての平均正答率は、読み書きとも市を上回った。 ・2年と3年生の漢字の読み書きについては、全設問において市の平均正答率を上回った。	・漢字については筆順や用い方などを丁寧に指導し、家庭学習も含めて繰り返し練習することで習熟を図る。 ・国語辞典を身近に置いて引くことに慣れさせたり、読書の量や質を改善したりすることによって、様々な言葉に触れる機会を作り、語彙力を高める。
ことばの学習	・平均正答率は、市の平均を上回った。 ・国語辞典の正しい言葉の並び方や、国語辞典から文意に合った言葉を選択する問題において、いずれも市の平均正答率を上回ったものの約50%に留まった。 ・ローマ字の読みの平均正答率は市と同等だった。 ・漢字のへんについての平均正答率は、市を上回った。	・国語辞典を常に身近に置いて引くことに慣れさせ、言葉の並び方の理解や文意に合った言葉を選択する力を高められるようにする。 ・ローマ字については一通り学習したが、繰り返し練習する機会を設けて習熟を図る。
ものがたりの内ようを読みとる	・平均正答率は、市の平均を上回った。 ・物語文を2つの場面に分ける問題の平均正答率は市の平均を上回ったものの、50%に届いていない。 ・登場人物の気持ちを読み取る問題の平均正答率は市を4ポイント上回り、80%を超えた。 ・文章のあらすじを要約する問題の平均正答率は、市を上回った。	・物語文の場面分けについては、国語の授業において観点を示し、実際に分ける経験を積むことによって、内容を考えて分けることができるようにする。 ・あらすじの要約についても、繰り返し経験したり、よい要約文を示したりすることによって、要点を押さえてまとめる力が身に付くようにする。
せつ明文の内ようを読みとる	・平均正答率は、市の平均を約3ポイント下回った。 ・説明文の内容を正しく読み取る問題の平均正答率は、市をやや下回っている。 ・文意を正しく捉えて接続語を選択する問題の平均正答率は、市をやや下回っている。 ・文章の要点に注意して読み取る問題の平均正答率は、市を約6ポイント下回った。	・説明文については、段落ごとに内容を詳しく読み取ったり、段落と段落のつながりを捉えたりする学習を、さらに丁寧にやっていくようにする。 ・接続語については、説明文の中で使われている意味を考えたり、実際に使って文を書く機会を多く設けたりして、正しく使用できるようにする。
調べてまとめたカードを読みとる	・平均正答率は、市の平均を約12ポイント上回った。 ・資料を読み取って発表用の文章に適切な一文を書き加える問題の平均正答率は、市を18ポイント近く上回ったが、50%に満たなかった。 ・文章を正しく読み取る問題の平均正答率は、市を約4ポイント上回った。	・資料の読み取りについては、国語の授業で内容を正しく捉えて読み取る指導を丁寧に行うようにする。 ・読書を推奨し、様々な文に慣れさせるようにする。 ・資料を活用して発表用の文を書くことについては、国語だけでなく、社会科や総合的な学習などにおいても丁寧に指導を行うようにする。
作文	・平均正答率は、市の平均を上回った。 ・指定された長さ、2段落構成、書こうとする中心や理由の明確化などの条件を取り入れて作文を書く問題の平均正答率は、いずれの条件においても市を上回った。	・作文の書き方については、既習の指導事項を機会あるごとに復習させるとともに、条件を取り入れて書く場面を設けて習熟を図る。 ・目的に合った文を簡潔に分かり易く書けるよう、国語だけでなく、他教科や領域においても書く機会をできるだけ多く設けるようにする。